

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「すずらん」として介護理念と5つの具体的な指標を決めている。		目標の意義付けを徹底させる。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	いつも目に入る場所に掲示している他、研修会やミーティングでも常に基本に立ち返るよう意識的に取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や地域との連携のは特に重視している。町内の行事への参加や、「すずらん」独自のお祭りを開催し地域、家族との交流を図っている。また、公民館等の文化活動をしている方々の慰問も多い。来訪者は、年間1千人ほどになっている。		よりたくさんの地域の方が、気軽に訪問していただけるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	狭い町なので、日頃から顔見知りの方が多い。お互いに声を掛け合い、助け合いを重視している。来訪者の時は、職員全員が自宅でお客様を迎えるように出来るよう心がけている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事(お祭り、盆踊りや芸能発表会など)には、積極的に参加している。		これからも、たくさんの方たちと交流していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所の取り組みとして、地域の高齢者のためのボランティア活動をしており、閉じこもり防止などを目指した活動をおこなっている。(ワンデーサービス)		居間が広いスペースになっているので、地域の沙龙的な役割を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		出来るだけ速やかに運営推進会議を実施していきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		町との関係を深め、サービスの質の向上やネットワークを広げる取り組みをしていきたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		勉強会等を重視しより内容の理解を深めていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		わかりやすい説明を心がけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者さんの意見や不満等は、必ずきちんと受け入れるようにしているが、外部へ表す機会は、特別設けていない。		運営推進会議などを利用して外部へ表す機会を作っていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	暮らしぶりや、金銭管理については、毎月お知らせしている。体調の変化があった場合は、その都度こまめに連絡している。職員の移動についても、特徴的なことを報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	何気ない家族との会話の中からも、気づかされる事もあるので、日常の中に取り入れるよう心がけている。		家族からの意見や苦情などがあつたらすぐに取り上げ運営に反映させたい。運営推進会議を利用して、外部の方たちとも一緒に考えていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	組合員の一人として、誰もが運営に参加する体制となっているため、職員全員の意見が反映されるようになっている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて、受信や夜勤体制、又外出対制等臨機応変に対応している。		必要に応じて1ユニットの夜勤を2名にしたり、日中の職員の数を増やしたりしている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動が、利用者さんに不安を与えないような配慮は、常に心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		より一層職員が働きやすい環境となるよう努めていきたい。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		勉強会の機会などを増やしなが、より向上心を養っていきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		より安心感を持って頂けるような関係づくりを目指したい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		これからも、安心感を与えられるような、対応をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況を判断しながら、さまざまなサービス利用の方法を紹介して、利用者さんにとって、一番必要な方法を一緒に考えるように努めている。		知識を広め、いろいろな状況に、適切にアドバイスできるようにしていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者さんの状態を一番に考えながら、その場にあった関わりを考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する立場、される立場という関係ではなく、共同生活の営みを目指しながら、日々の生活を送っている。		言葉のかけ方や対応について、職員間でお互いに向上していくような環境作りをめざしていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係も利用者さんと同様、同じ目線で関われるようにしている。又、家族も役割を持って接してもらえるようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者さんと家族の関係を把握した上で、良い関係づくりができるように、橋渡しをしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	アセスメントをしっかりと行い、多くの情報を知り、出きるだけ関係が途切れないように配慮している。		十分なアセスメントで、少しでも昔ながらの関係が継続できるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は積極的に利用者同士の関係作りに努め、又個別の対応も大切にしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者さんとの契約が終了しても、家族が行事に参加して頂くなど、関係は継続されている。		関わった方たちとは、共に地域の福祉介護の向上の協力者として、継続して交流していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。			
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。			
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者さん全員の様子は、毎日の関わりの中から把握できるようにしている。		アセスメントをしっかりと行いながら、職員全員が利用者さんの細かな様子も把握できるようにつとめていきたい。又変化についてもすぐに報告しあえるように取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員による日常の中での気づきを基に、カンファレンスやアセスメントを出来るだけ行い、利用者さんにとって必要な介護計画になるようにしている。		これからも、より良い介護計画になるような努力をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変化に応じた、その都度必要な計画を立てるようにしている。		介護計画と日常のサービスが連動するように取り組んでいきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	以前のものを見直し、状況を把握しやすいような用紙の工夫を行っている。		今後も一番良い方法を見つけ工夫していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームとしてできることは、できる限りご本人、利用者さんの要望に応えていこうとする。		事業所としての多機能性を十分に理解した上で、できることできないことを考えながら、ご本人やご家族の要望に柔軟に対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	たくさんの関係機関と関わりを持つことを目指して、積極的な呼びかけや、参加心がけている。		今後もより多くの地域の方たちとの関わりを持ちたいと思っている。消防署の協力による年に2回以上の防火訓練や、ボランティアの定期的な訪問、小学生の施設見学、芸能発表の見学などは行っている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスを利用していない。		グループホームとして他のサービスを利用できるような仕組みであればたくさんのその方に合ったサービスを使っていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターと協働する機会を持っていない。		今後は、地域包括センターと関わっていかなければいけないと必要性を感じている。さまざまな疑問を相談していきたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	町内には、病院が1件しかないため、その病院が古くからかかりつけとなっていることが多く、相談しやすい状況にある。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の精神科医は、1名であるが相談等については、丁寧に説明していただける。		入居者さんの全員が、精神科医の受診を受けておられるとは限っていないので、精神科医の受診ができるように進めていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	グループホームの職員としての看護師は、配置していないが、同事業所内に看護師がいるため、医療的な相談が常に受けられるようになっている。		日常生活に必要な、医療に関する基礎知識は、最低限知識をもてるようにしていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	必要な情報交換は、お互いに行っている。		3年間の実績で序助に連携がされるようになってきているため、これからも関係を密にし助け合っていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合には、家族、本人と話し合う機会を作っており、職員全員が同じ方向でケアにあたるようにしている。医師との繰り返しの話し合いについては、不足している部分があると思われる。		重度化した場合、積極的に医師を交えて話し合いの機会をもち、医師にもグループホームでの生活などについて理解を深めていただきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	その状況になった場合には、医師と連携しながら、どの方法が一番良いのか検討している。		現状では、本人の意志が尊重されないことも多いためその部分を医師に伝えるような説明をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅からグループホームへと変わられた際には、不安感を最小限にするようこころがけている。グループホームから住居が移ったケースはほとんどない。		今後、グループホームから住居を移すような場合は、少しでもダメージを少なくするための情報を関係者等に細かく伝えていきたいと思う。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉かけや、対応の方法などや、プライバシーについても細心の注意を払って取り組むようにしている。		普段気をつけていることではあるが、さらに気配りをしていきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の自己決定の場面を大切に考えている。職員のペースにならないように心がけている。		利用者さんの力が発揮できる場面や、自己決定のサポートをし、自分らしさを出せるような支援をしていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者さんのペースを大切にできるような支援を職員全員ができるよう、常に話し合いで検討している。		日々介護サービスの評価を行い、満足のいく生活ができるように支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容室へ行きたいという希望がある方には、先方にあらかじめ連絡をとり、自由に行って頂けるようにしている。又定期的に、業者さんに来てもらう等その人らしい身だしなみができるよう気をつけている。		女性が多いため美容院来て貰う等の工夫をしている。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	野菜の皮むきや魚をおろしていただいたり、漬け物をつくってもらったりなどなるべく一緒に取り組めるようにしている。食事も職員と一緒に会話をしながら楽しい時間となるようにしている。		食事の内容により、臨機応変に対応しているが、楽しみのある食事の場面を設定していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒、喫煙については、積極的に進めていない。行事の際などにお酒など用意することもあるが、好まれる方があまりなく、機会が遠のいている。		利用者さんの好みを生かし、自由に楽しめるようにしていきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンや行動を知ることにより、こまめにトイレへ誘導している。排泄はなるべくトイレで行えるようにしている。		少しでも、快適な生活が送れるような支援をしていきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、毎日できるようにして、希望を聞きながらいつでも入れるようにしている。(午後が中心)		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間も、個人によって異なり、利用者によってベットや布団の使用を自由に行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家族や、ご本人から生活歴を聞きながら、趣味や楽しみを知り実現できるようプランにとりいれている。		より生活が楽しく送れるように、アセスメントをしっかりと行いその方らしい暮らしができるようなプラン作りをしていきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している方は少ないが、自由に使えるようになっている。		行事に参加した時など(お祭りなど)に自分の財布で好きな物を自由に購入できるような支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	町の中に認知症高齢者が外出できる場所が限られているため、中々機会が少ない。		以前より外出の頻度は増えてきているが、もう少し外出の機会を増やしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけないうところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があった場合は個別の対応をし、実現できるようにしている。入居者さんの重症度も増しつつ有り、限られた職員では十分な個別の対応は出来ない。家族の協力を出来るだけお願いしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	出きるだけ電話をかけ会話できるような支援をしている。		手紙や葉書に対しても積極的に支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	門限や時間の制限などを設けずに、いつでも気軽に出入りが出来るようにしている。又、来所の折りは、職員全員が家族の一員としてお迎えするよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で取り組んでいる。		介護保険法指定基準における禁止の対象となるものを再確認していきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施設の内外のすべてに鍵はかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	体の状態を把握しながら、その方にあった方法で、安全に生活できるよう支援をおこなっている。プライバシーについても、気を配っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態を知り、危険を防げるような、対応を行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員が、マニュアルに基づき事故防止にとりくんでいる。		咄嗟の時に、機敏に対処できるように知識をたかめていきたい。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的な訓練は、行っていない。		救急救命については、救命士等による訓練ができるようにしていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回以上の防火訓練をおこなっている。水害や地震時の訓練はまだ行っていない。		災害全般における訓練を行ってほしいし、地域の方達への協力もお願いしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	そのとき時に応じて、起こりうるリスクについては、話あっている。		抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策とはどのようなことか、理解していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化がある場合は、管理者や各ユニットの主任より情報を伝え、速やかに全員が把握できるようにしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬についての重要性は各人が自覚して、間違いの無いように気をつけている。		全員が一人一人の薬についての効果や副作用についても知識を深めていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	高齢者の便秘の重大さは、全員が認識しており、記録をとり便秘が解消できるような取り組みを行っている。		飲食物、運動など心がけてはいるが、結果がでないこともあるのでより学習を深めていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後のケアには至っていない。		こまめな口腔ケアの支援ができるように、努力していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分のチェック、ご本人の食べるスピードなどを把握した支援を行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手荒いの励行や、塩素系の漂白剤の使用等で気をつけている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	作り置きなどせず、調理した時のみの物を摂るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		<p>プライベートな空間がもう少し作れるような配慮をしていきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	できること的情報をたくさん集めるようにして、自信をもって生活できるように支援している。混乱や失敗は未然に防げるように配慮している。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	芝生や花壇、畑をつくり一緒に作業に関わりながら楽しめるようにしている。		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

特に力を入れているということではありませんが、利用者さんの昔してきたことで、今でも生き生きとできることをたくさんみつけ一緒に教わりながら楽しく毎日が生活できたらと日々感じています。